

**注意**

この標準シラバス案（2017年12月28日版）は、改訂前の古いバージョンです。  
 新しい標準シラバス（2018年8月22日版）をご利用ください。  
[https://psych.or.jp/qualification/shinrishi\\_info/shinrishi\\_syllabus/](https://psych.or.jp/qualification/shinrishi_info/shinrishi_syllabus/)

公益社団法人 日本心理学会 2017年12月28日

**公認心理師大学カリキュラム 標準シラバス（案）**

- 公認心理師の大学カリキュラム25科目について、常務理事会を中心としてシラバス例を作成しました。大学等で授業を担当している本学会会員の教育指針としてご利用いただければ幸いです。また、本学会が認定する認定心理士の方の学習指針としてご利用いただければ幸いです。
- 大項目は、公認心理師カリキュラムで各科目に「含まれる事項」を示します。中項目は、各回の授業タイトルの例を示します。授業回数に合わせて12～15項目程度としました。小項目は、含まれるキーワードの例を示します。本シラバスは一例にすぎず、これ以外の項目もありえます。
- 内容については今後も改訂していく予定です。シラバス改訂にあたって会員のみならずパブリックコメントを求めます。2018年3月末くらいまでに、学会代表アドレス宛てにご意見をお寄せください。  
 jpa@psych.or.jp

カテゴリー	科目番号	大学における必要な科目名	大項目 各科目に「含まれる事項」	中項目 各回の授業タイトルの例	小項目 含むべきキーワードの例
基礎科目	1	公認心理師の職責	①公認心理師の役割	A 公認心理師の役割の理解	公認心理師法 心理的アセスメント 心理学的支援 関係者への支援 心の健康教育
			②公認心理師の法的義務及び倫理	A 公認心理師の法的義務	公認心理師法の成立の経緯と趣旨 名称独占資格と業務独占資格 信用失墜の禁止 秘密保持義務 関係者との連携 主治医の指示 資質向上の責務
				B 公認心理師の倫理	守秘義務 連携義務 通報義務
			③心理に関する支援を要する者等の安全の確保	A 心理に関する支援を要する者等の安全の確保	安全の確保 支援を要する者中心の立場 人権と尊厳への敬意 自己決定権
			④情報の適切な取扱い	A 情報の適切な取扱い	秘密保持 個人情報保護法 情報共有
			⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務	A 保健医療分野の業務	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務
				B 福祉分野の業務	福祉分野における公認心理師の具体的な業務
				C 教育分野の業務	教育分野における公認心理師の具体的な業務
				D 司法分野の業務	司法分野における公認心理師の具体的な業務
				E 産業分野の業務	産業分野における公認心理師の具体的な業務
	⑥自己課題発見・解決能力	A 自己課題発見・解決能力	自己課題発見能力 課題解決能力		
	⑦生涯学習への準備	A 生涯学習と自己研鑽	大学における養成カリキュラムと学び 大学院における養成カリキュラムと学び 国家試験 生涯学習 自己研鑽		
	⑧多職種連携及び地域連携	A 多職種連携、地域連携、チームとしての活動	多職種連携 チームアプローチ チーム医療 チーム学校 地域連携		
	2	心理学概論	①心理学の成り立ち	A 心理学と諸科学	心理学の定義 範囲 関連分野（経済学 経営学 社会学 哲学 教育学 行動生物学 進化生物学 分子遺伝学 脳科学など）
				B 心理学の歴史：ヴァント以前の心理学	デカルト以前の心のとらえ方 デカルト以降の心のとらえ方 ヴァント登場に至る哲学 物理学 医学 生物学の状況
				C 心理学の歴史：科学的心理学の成立と展開	内観 構成 機能 意識の流れ 論理実証主義 客観性 操作主義 行動主義の成立と批判
				D 心理学の歴史：計算機科学と脳科学の影響	認知主義 言語学 コンピュータ科学 PDPモデル 人工知能 行動経済学
			②人の心の基本的な仕組み及び働き	A 心理学の諸分野：系統発生的基盤	生理 神経 比較（動物）
				B 心理学の諸分野：個体発生的基盤	学習 発達 感情（情動）
				C 心理学の諸分野：認知的基盤	感覚 知覚 認知
D 心理学の諸分野：言語的基盤				言語 思考	
E 心理学の諸分野：社会的基盤				集団 社会 家族	
F 心理学の諸分野：制度的基盤				教育 学校 司法 犯罪	
G 心理学の諸分野：文化的基盤	産業 組織 文化				
H 心理学の諸分野：適応的基盤	健康 医療 福祉 障がい				
I 心理学の諸分野：個人的基盤	臨床 パーソナリティ				
J 心理学の展開	文理融合の学としての心理学 心理学が参加する新しい領域（進化科学 感性科学 社会制度設計など）の可能性				

カテゴリー	科目番号	大学における必要な科目名	大項目 各科目に「含まれる事項」	中項目 各回の授業タイトルの例	小項目 含むべきキーワードの例			
3	臨床心理学 概論		①臨床心理学の成り立ち	A 精神分析学と力動的心理療法の成り立ち	フロイトの精神分析学 力動的心理療法の各流派			
				B 行動理論と行動療法の成り立ち	レスポナント条件づけにもとづく介入 オペラント条件づけにもとづく介入 観察学習にもとづく介入 応用行動分析			
				C 人間性心理学と人間中心アプローチの成り立ち	ロジャースのクライエント中心療法 マズローの自己実現理論 人間性心理学の各流派			
				D 認知理論と認知行動療法の成り立ち	ベックの認知理論にもとづく認知療法 エリスの論理情動療法 第3世代の認知行動療法			
				E 心理療法の諸理論の成り立ち	個人療法と集団療法 家族理論と家族療法 コミュニティ心理学 日本独自の心理療法			
				F 心理的アセスメントの成り立ち	知能検査の歴史 人格検査の歴史 心理測定理論の歴史			
			②臨床心理学の代表的な理論	A 臨床心理学の基本的概念	生物・心理・社会モデル チームアプローチ 多職種連携 科学者-実践家モデル 素因ストレスモデル 心理的アセスメント 異常心理学(心の病理学) 心理療法			
				B アセスメントの理論と技法(1)面接法	面接者の基本的態度 参与しながらの観察 インテーク面接 心理的アセスメントと面接 心理療法と面接 非構造化面接法 半構造化面接法 構造化面接法			
				C アセスメントの理論と技法(2)知能検査・発達検査・認知機能検査	知能検査 発達検査 認知機能検査 信頼性と妥当性			
				D アセスメントの理論と技法(3)性格検査	質問紙法 投映法 作業検査法 テストバッテリー 信頼性と妥当性			
				E ケースフォーミュレーションと異常心理学(心の病理学)	見立て 心理診断 ケースフォーミュレーション 異常心理学(心の病理学)と障害の心理学的メカニズムの理解			
				F 心理療法の理論	精神分析療法 力動的心理療法 行動療法 応用行動分析 クライエント中心療法 認知療法 論理情動療法 第3世代の認知行動療法 集団療法 家族療法			
				G 心理療法の折衷と技法選択, 効果のエビデンス	折衷法 共通要素 治療効果研究 治療効果のエビデンス 事例研究 事例実験法 対照試験 無作為割付対照試験(RCT) 効果量 メタ分析 心理療法のガイドライン			
			4	心理学研究 法		①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)	A 科学と実証	科学的説明 実証と反証 再現可能性
							B 実験的方法と観察的方法	相関関係と因果関係 相関関係の解釈 別の因果関係
							C 実証の手続き	変数 補助仮説・操作的定義 信頼性 妥当性
							D 実験的方法(1)実験法	独立変数と従属変数 変数の操作と測定 剰余変数と統制 要求特性 観察反応(反応性)
							E 実験的方法(2)実験法と準実験法	実験室実験と質問紙実験 現場実験と自然実験 準実験(横断的方法と縦断的方法)
F 観察的方法(1)調査法	相関的方法 質問項目と回答方法 質問票の構成 標本抽出(サンプリング) 調査方法の種類							
G 観察的方法(2)検査法	標準化 知能検査 学力検査 適性検査等 人格目録法検査 投影(投映)法検査 作業検査 信頼性と妥当性							
H 観察的方法(3)観察法	自然観察法と実験観察法 参加観察法 見本法 記述法 観察者のバイアス 観察の信頼性 質的方法と仮説生成							
I 実験的方法(4)面接法	調査的面接法と心理臨床的面接法 面接の構造化 面接ガイド 記述法 ラポール 面接者のバイアス 質的方法と仮説生成							
②データを用いた実証的な思考方法	A 相関関係から因果関係へ	因果の方向性 疑似相関 別の因果関係						
	B 定性的研究から定量的研究へ	探索的研究 仮説生成と仮説検証						
	C データの統計的記述	数量化 効果量 統計的検定						
	D 複雑な心理現象のモデリング	多変量解析						
③研究における倫理	A 人権尊重とインフォームドコンセント	倫理原則・規程 人権保護 法令等順守 倫理審査						
	B 研究の不正の禁止	捏造・改竄・盗用 利益相反						

カテゴリー	科目番号	大学における必要な科目名	大項目 各科目に「含まれる事項」	中項目 各回の授業タイトルの例	小項目 含むべきキーワードの例				
	5	心理学統計法	①心理学で用いられる統計手法	A 記述統計：代表値と散布度	ヒストグラム 平均値 分散 不偏分散 標準偏差 標準化中央値 範囲 4分位範囲 最頻値 頑健性				
				B 記述統計：相関	散布図 クロス集計 共分散 積率相関係数 順位相関 連関係数 因果関係 相関関係				
				C 記述統計：回帰	回帰直線 最小二乗法 説明変数 目的変数 補間 補外 残差				
				D 離散分布：二項分布を中心として	二項分布 幾何分布 ポアソン分布 正規近似				
				E 連続分布：正規分布を中心として	中心極限定理 大数の法則 標準正規分布 標準正規分布表の読み方 偏差値 統計量分布				
				F 推測統計：その考え方	区間推定 点推定 有意水準 帰無仮説 対立仮説 両側検定 片側検定 検定力 パラメトリック検定 ノンパラメトリック検定				
				G 推測統計：代表値と散布度をめぐって（1）	大標本 1要因分散分析 t検定				
				H 推測統計：代表値と散布度をめぐって（2）	2要因分散分析 多重比較 中央値を用いたノンパラメトリック検定				
				I 推測統計：頻度や比率をめぐって	二項検定 直接確率法 $\chi^2$ 乗検定				
				J より高度な記述や推定を目指して	探索的データ解析 ランダムイゼーション・テスト ベイズ推定 メタ分析				
				②統計に関する基礎的な知識	A 統計分析の基礎：母集団と標本	統計の歴史 数量化 標本抽出 乱数			
					B 確率と確率分布	確率の考え方 確率変数 確率関数 離散分布 連続分布 確率密度関数			
					C エクセル, R, SPSS入門（1）	統計分析のための言語の手ほどき プログラムの基本的操作			
					D エクセル, R, SPSS入門（2）	実際のデータでの計算 初歩のプログラミング			
					E エクセル, R, SPSS入門（3）	視覚化 折れ線グラフ 棒グラフ 円グラフ			
					6	心理学実験	①実験の計画立案	A レポートの書き方・心理学実験の倫理	レポートの構成 科学的文体 引用 レポートの剽窃 盗用 ねつ造 図書館・インターネットの利用法 実験上の倫理的諸問題
								B 調整法	Müller-Lyerの錯視：主観的等価点 被験者調整法 錯視量 t検定
								C 極限法	音の刺激閾：絶対閾 完全上下法 ウェーバー・フェヒナーの法則
								D 恒常法	重さの弁別閾：弁別閾 恒常法 正規累積曲線 精神測定関数
								E マグニチュード推定法	重さの感覚尺度：べき法則 マグニチュード推定法 異種感覚間マッチング
F 一対比較法	選好の測定：一対比較法 尺度構成 一貫性								
G 正反応・誤反応	ノイズの中の信号：信号検出理論 ROC曲線 ヒット・ミス・FA・CR 閾値の変動								
H 実験とモデル構成	記憶の処理水準：クレイクとタルヴィングパラダイム 短期・長期記憶 作業記憶								
I 反応時間	視覚探索課題／ストループ効果：注意の資源／自動化 2重過程説								
J 潜在性	単純接触効果／プライミング：知覚の流暢性 潜在記憶								
			②統計に関する基礎的な知識	A 統計手法と科学的表記法	統計パッケージの利用 グラフ・表の構成 可視化 単位 測定誤差				
				B 質問紙（調査）法（母集団と標本、サンプリング）	態度測定もしくは性格検査 質問紙の作成上の注意 標本抽出ワーディング 反応バイアス カテゴリー尺度				
				C 検査法（クラスター分析、因子分析などの多変量の統計的取り扱い）	知能検査：教示訓練 集団検査 信頼性 クラスター分析 因子分析				
				D 時系列データ（時系列などのデータ間に相関がある場合の統計的取り扱い）	知覚運動学習：回転盤追跡器 集中学習 分散学習				
				基礎心理学	7	知覚・認知心理学	①人の感覚・知覚等の機序及びその障害	A 感覚の種類と構造	感覚モダリティ 視覚系
								B 感覚・知覚の基本的特性	閾 順応
								C 視覚	錯視 空間知覚 運動知覚
								D 聴覚	聴覚系 音声コミュニケーション
								E 化学的感覚・体性感覚他	嗅覚 味覚 体性感覚 クロスモーダル知覚
								F 対象認知他	物体知覚 顔認知 時間知覚 感性
G 感覚・知覚の障害	色覚多様性 失認								
H 認知・思考等の機序及びその障害	情報処理 処理の二方向性								
				B 記憶のメカニズム(1)ワーキングメモリ	短期記憶 ワーキングメモリ 心的操作				
				C 記憶のメカニズム(2)長期記憶	意味記憶 潜在記憶 イメージ				
				D 記憶のメカニズム(3)日常的記憶	エピソード記憶 偽りの記憶				
				E 注意のメカニズム	選択的注意 抑制				
				F 知識の表象と構造	宣言的記憶 手続き的記憶 スキーマ メタ認知				
				G 問題解決と推論	演繹と帰納 思考の歪み				
				H 認知・思考の障害	認知障害 精神障害				

カテゴリー	科目番号	大学における必要な科目名	大項目 各科目に「含まれる事項」	中項目 各回の授業タイトルの例	小項目 含むべきキーワードの例	
8		学習・言語心理学	①人の行動が変化する過程	A	学習・行動領域の心理学 (学習・行動研究の歴史, 考え方, 他領域との接続)	パヴロフ (条件反射) ソーンダイク (試行錯誤学習・効果の法則) ワトソン (古典的行動主義 恐怖条件づけ) トールマン (新行動主義 認知地図 仲介変数) ハル (仮説演繹体系 動因) スキナー (徹底的行動主義 オペラント) 認知主義 行動経済学 行動生態学 行動生物学
				B	行動の測定と実験デザイン (行動の定義, 行動の測定法・観察法・実験法)	環境・個体・行動の定義 反応型と行動の機能 動物や人の行動の測定上の注意 様々な観察法 群間比較と個体内デザイン 反転法 多層ベースライン法 倫理的問題
				C	生得性行動 (行動の分類, 随伴性と条件づけ, 生得性行動の種類, 馴化と鋭敏化)	生得性と学習性 因果・相関・独立関係 刺激と反応の随伴性 反射・向性・動性・走性・固定的活動パターン・生得的反応連鎖 解発 (触発) 子 刻印づけ 学習の原初形態としての馴化の法則
				D	レスポナント (古典的) 条件づけ (レスポナント条件づけの手續き・実験事実)	無条件・条件 (レスポナント) 刺激 無条件・条件反応 (無条件・条件レスポナント) 中性刺激 順行・逆行条件づけ 延滞条件づけ 条件抑制 条件補償反応 味覚嫌悪学習 条件制止 隠蔽 阻止 随伴性学習
				E	オペラント (道具的) 条件づけ (オペラント条件づけの手續き・実験事実)	強化・弱体化 強化子・弱化学子 提示型 (正の)・除去型 (負の) 強化子 条件強化子 トークン・エコノミー 一般性条件強化子 反応形成 分化強化 学習の生物学的制約 強化の概念 反応遮断化理論 外発的・内発的動機づけ
				F	強化随伴性 (行動の増強や減弱をもたらす諸変数, 強化スケジュールの基礎)	確立 (動機付与) 操作 遮断化 飽和化 反応率 反応間時間 反応潜時 反応強度 強化率 強化量 強化確率 強化履歴 随伴性空間 強化スケジュール 要素となる (時間 消去 比率 時隔 分化) スケジュール 構成にあずかる (継時型 同時型 論理型 関係型) スケジュール 維持過程・減弱過程での反応パターン
				G	刺激性制御 (弁別オペラント条件づけの手續き, 弁別や般化の基礎, 条件性弁別, 反応連鎖)	(正の・負の) 弁別刺激 同時弁別 継時弁別 (興奮性・制止性) 般化勾配 頂点移動 移調 条件性弁別刺激 見本合わせ 刺激等価性 刺激の多重機能 逆行 (順行) 連鎖 (法) 無誤弁別学習 溶化 (フェイディング)
				H	学習・行動研究と言語研究をつなぐもの (高次学習, 概念形成, 比較認知, 動物での言語研究, 言語の機能的アプローチ)	選択行動 自己制御 学習セット 逆転弁別 自然概念 (中心と周縁) 家族的類似 計数・計時行動 記銘行動 動物の言語行動 マンド タクト エコーイック
			②言語の習得における機序	A	言語領域の心理学 (言語の生物学的基盤, 言語の心理学的研究の歴史・理論)	言語の系統発生的起源 自然選択 性選択 文法化 言語における脳機能 フローカ野 ウェルニッケ野 ティンバーゲン (動物行動学) スキナー (言語学習理論 模倣言語行動) チョムスキー (生成文法理論 普遍文法) レイコフ (認知言語学) トマセロ (社会語用論的アプローチ)
				B	言語発達の研究法 (言語の定義, 言語発達の研究法)	言語の象徴機能 言語の定義的特徴 (慣習性 恣意性 超越性 生産性) 言語の4領域 (音韻・語彙・文法 (統語)・語用論) 日誌研究 コーパス研究 質問紙研究 言語発達尺度 実験研究 (行動実験 選好注視法 馴化法)
				C	言語発達の社会的基盤 (乳児の対人感受性, 言語発達における社会的基盤)	乳児の対人知覚能力 人の顔パターンの知覚と選好 視線検出 人の声への感受性と選好 マザリーズ (IDS: 対乳幼児発話) 養育者の語りかけ 発達の最近接領域 二項関係 三項関係 共同注意 視線追従 指さし 社会的参照 やりとり
				D	音韻能力の発達 (ヒトの音声産出, 音韻能力の発達)	構音器官 構音のしくみ 音韻の定義 母音 子音 シラブル モーラ ストレス ピッチ イントネーション 音のカテゴリカルな知覚 セグメンテーション 叫喚音 クーイング 過渡的な喃語 規準喃語 ジャーゴン 音韻知覚の成立 幼児音 幼児音の消失
				E	語彙能力の発達 (言語カテゴリーの性質, 語彙能力の発達)	言語の象徴機能 能記 (意味するもの) 所記 (意味されるもの) 初語 概念カテゴリー 過大般用 過小般用 理解語 産出語 (表出語彙) 語彙カテゴリー (名詞 動詞 閉じた語類) 指示対象と語のマッピング 語意バイアス 形バイアス 相互排他性 社会的手がかり 語彙の爆発的増加
				F	文法能力の発達 (言語構造の性質, 文法能力の発達)	一語発話 二語発話 平均発話長 右枝分かれ 左枝分かれ 埋め込み文 構文の発達 語順 文法形態素の獲得 (助詞 助動詞) 項構造 授受動詞 視点動詞 用法基盤モデル 統語的ブートストラッピング (統語的初期駆動) 言語発達の臨界期
				G	語用論的能力の発達 (発話意図推測のしくみ, 語用論的能力の発達)	発話内行為 発話媒介行為 意図伝達 字義通りの意味 含意 (インプリカチャー) 心の理論 視点取得 非言語コミュニケーション行動の理解 (視線・指さし) ナラティブ (語り) ディスコース (談話) ターンテークング (話者交替) グライス (会話の公準) スペルベルとウィルソン (関連性理論)

カテゴリー	科目番号	大学における必要な科目名	大項目 各科目に「含まれる事項」	中項目 各回の授業タイトルの例	小項目 含むべきキーワードの例			
9		感情・人格心理学	①感情に関する理論及び感情喚起の機序	A 感情の基礎	感情経験 生理反応 感情表出 アフェクト			
				B 感情の生物学的基礎	交感神経-副腎髄質系 HPA系			
				C 感情の理論(1)古典的理論	末梢起源説 中枢起源説 二要因説 顔面フィードバック説 特性論と次元論			
				D 感情の理論(2)基本的感情説と次元説	エクマン プルチック ラッセル フライダ フレドリクソン 気分一致効果			
				E 感情と行動	行動経済学 システム1・2 ダマシオ			
				F 感情の測定	質問紙法 生理学的測定法			
			②感情が行動に及ぼす影響	A 援助行動・共感性	視点取得 共感的関心			
				B 感情の制御	バイオフィードバック 自律訓練法 マインドフルネス			
			③人格の概念及び形成過程	A 人格の概念	人格の統合機能 人格の層構造 情意的側面と知的側面 人格の個人差 人格の変容			
				B 知的機能の個人差	遺伝的要因 環境的要因 知能の障害			
				C 人格の形成と変容	遺伝的要因 環境的要因 人格の変容 健康な人格			
			④人格の類型, 特性等	A 人格の理論	類型論 特性論 因子論			
				B 性格5因子論	神経症傾向 外向性 開放性 協調性 誠実性			
				C 人格の障害	パーソナリティ障害 (DSMによる)			
			10		神経・生理心理学	①脳神経系の構造及び機能	A 脳神経系の解剖	中枢神経系 自律神経系 脳神経 内臓神経 大脳皮質 大脳辺縁系 脳幹網様体
							B 神経系の情報伝達	ニューロン シナプス イオンチャネル 活動電位 神経伝達物質
							C 大脳皮質の機能局在	ペンフィールド 運動性言語野(ブローカ野) 感覚性言語野(ウェルニッケ野) 前頭前野 島皮質
							D 脳神経系機能の研究手法	脳損傷 脳波(脳電図) PET MRI NIRS TMS
							E 神経の可塑性と環境の影響	神経細胞の分化 LTPとLTD シナプスの精緻化とHebbモデル エピゲノム
						②記憶, 感情等の生理学的反応の機序	A 感覚・知覚と脳神経系	視覚系 聴覚系 体性感覚系 化学感覚系 感覚の統合 視床
							B 運動と脳神経系	運動野 運動前野 小脳 大脳基底核 運動系疾患
							C 記憶と脳神経系	短期記憶 長期記憶 顕在記憶(宣言的記憶) 潜在記憶とプライミング
							D 感情と脳神経系	視床下部 扁桃核 交感神経と副交感神経 HPA系 恐怖条件づけの脳機構
							E 動機づけと脳神経系	ホメオスタシス 摂食行動 ドーパミンと報酬系 視床下部 薬物乱用と嗜癖
						③高次脳機能障害の概要	A 高次脳機能障害	失語 失行 失認 記憶障害
							B 精神疾患と脳神経系	統合失調症 気分障害と不安障害 神経発達障害
						11		社会・集団・家族心理学
B 社会的自己	自己知識・自己概念 自己知覚 自己評価・自尊心の維持・高揚のメカニズム 自己制御 自己呈示							
C 対人関係・対人行動	対人魅力 社会的交換 協力と競争 援助行動 攻撃行動							
D コミュニケーション	言語コミュニケーション 非言語コミュニケーション コミュニケーション・ネットワーク							
E 集団・組織	所属・成員性 集団への同調 内集団ひいき 集団内の地位とリーダーシップ							
②人の態度及び行動	A 態度の機能と構造	態度の形成と機能 態度の構造と変化 態度と行動の一貫性						
	B 説得による態度と行動の変化	送り手の要因 メッセージの要因 受け手の要因 状況の要因 態度変化のモデル 説得への抵抗						
③家族, 集団及び文化が個人に及ぼす影響	A 家族の機能	性に関わる機能 子どもの社会化に関わる機能 情緒に関わる機能						
	B 家族内の関係	家族システム 夫婦関係 親子関係 きょうだい関係 家族の発達段階						
	C 集団・組織の影響	情報的影響と規範的影響 集団凝集性 組織規範と組織文化						
	D 文化の影響	規範 慣習・習慣 制度 相互構成的な文化的存在としての人間 子どもの養育と発達 異文化接触						

カテゴリー	科目番号	大学における必要な科目名	大項目 各科目に「含まれる事項」	中項目 各回の授業タイトルの例	小項目 含むべきキーワードの例
	12	発達心理学	①認知機能の発達及び感情・社会性の発達	A 外界認知の発達	新生児の知覚 視覚 聴覚 共鳴動作・同調行動
				B 思考とことばの発達	言語獲得と語彙習得 会話の発達 思考と推論
				C 感情の発達	感情の種類 感情の理解と表出 愛着
				D 対人関係の発達	対人枠組み 親子関係 友人・ピア 個人と集団
				E 発達の生物学的基礎	遺伝と環境 生得性と初期知識 脳と神経系 性差の基盤
			②自己と他者の関係の在り方と心理的発達	A 自己と他者の認知	自他の区別 自己認知 他者認知
				B 自己の発達	自己意識・自己概念 自尊心 自己効力感
				A 出生前期	胎児をとりまく環境 胎児の能力
			③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達	B 新生児期	新生児の能力(聴覚 視覚 顔認知) 反射
				C 乳児期	運動感覚的知能 信頼対不信 愛着の形成 三項関係 社会的参照
				D 幼児期	前操作期の知能 自律対恥 心の理論 領域固有性と領域一般性
				E 児童期	具体的操作期の知能 勤勉対劣等感 読み書きの発達 身体運動
				F 青年期	形式的操作期の知能 自己の確立対拡散 社会的参加
				G 成人期・老年期	成人期・高齢期の知的発達 生殖性対停滞 統合と絶望
	④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方	A 定型発達と非定型発達	発達障害 コミュニケーション 身体運動		
		A 高齢者の心理社会的課題及び必要な支援	高齢者の心理発達の課題と必要な支援 老化のメカニズム 回想と自伝的記憶 幸福感と死への準備		
	13	障害者・障害児心理学	①身体障害、知的障害及び精神障害の概要	A 身体障害	視覚障害 聴覚障害・平衡機能障害 音声・言語障害 肢体不自由 内部障害
				B 知的障害	知的障害の定義 知的機能の原因
				C 精神障害(1)定義と分類	精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM) 国際疾病分類(ICD)
				D 精神障害(2)不安症関連	限局性恐怖症 社交不安症 パニック症 全般不安症 強迫症 急性ストレス障害 心的外傷後ストレス障害 適応障害
				E 精神障害(3)うつ病関連	双極性障害 抑うつ障害
				F 精神障害(4)精神病性障害	統合失調症 妄想性障害
				G 精神障害(5)その他の精神障害	摂食障害 物質関連障害 神経認知障害(認知症) パーソナリティ障害
				H 神経発達症(発達障害)	自閉スペクトラム症 注意欠如・多動症 限局性学習症 運動症
				②障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援	A 障害の生物・心理・社会モデル
			B 障害受容過程		障害否認 障害受容 障害受容過程に応じた心理学的支援
			C 精神障害の心理学的メカニズム(異常心理学)の理論		異常心理学(心の病理学)と心理学的介入 精神分析理論 行動理論 認知理論 自己理論 健康心理学理論 素因ストレスモデル
D 医療分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援			精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法) 心理的アセスメント 認知行動療法 社会生活技能訓練(SST)		
③教育分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援			E 特別支援教育 特別支援教室		
	F 福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援	身体障害者福祉法 障害者福祉施設 障害者福祉サービス セルフヘルプグループ 雇用支援			
14	心理的アセスメント	①心理的アセスメントの目的及び倫理	A 心理的アセスメントの目的及び倫理	心理アセスメントと心理診断 倫理的配慮	
			②心理的アセスメントの観点及び展開	A 有用な情報の総合的把握	現病歴 生活史 家族史
				B 関与しながらの観察	面接 ラポール
		C 信頼性と妥当性		信頼性 妥当性 標準化	
		③心理的アセスメントの方法(種類、成り立ち、特徴、意義及び限界)	A 面接法	診断面接 治療面接	
			B 観察法	自然的観察 実験的観察	
			C 知能検査	知能検査のなりたち 知能検査の種類	
			D 発達検査	発達検査のなりたち 発達検査の種類	
			E 人格検査(1)質問紙法	質問紙法の特徴 質問紙法の種類	
			F 人格検査(2)投映法	投映法の特徴 投映法の種類	
			G 症状評価法・診断面接基準	症状評価法の種類 診断面接基準の種類	
			H 神経心理学検査	高次脳機能障害 神経心理学検査の種類	
			I 認知機能検査	認知機能 認知症 認知機能検査の種類	
			J テストバッテリー	心理検査の組み合わせの必要性 結果の総合的理解	
			④適切な記録及び報告	A 適切な記録、報告、振り返り等	記録の保管 報告書の作成 フィードバック

カテゴリー	科目番号	大学における必要な科目名	大項目 各科目に「含まれる事項」	中項目 各回の授業タイトルの例	小項目 含むべきキーワードの例	
15	心理学的支援法	①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界	A	精神分析療法・力動的心理療法	自由連想法 作業同盟の形成 直面化・明確化 抵抗や転移の解釈 徹底操作 ライフスタイルの分析 ボタンを押す技法	
			B	芸術療法・表現療法	絵画療法 プレイセラピー 箱庭療法 音楽療法	
			C	行動療法	系統的脱感作法 断行反応法 エキスポートージャー法 モデリング法 バイオフィードバック法	
			D	行動分析	ABC分析 強化・消去 消極的罰 トークンシステム ペアレント・トレーニング	
			E	認知療法・認知行動療法	認知の歪みの修正 自動思考・スキーマへの介入 自己教示訓練 認知の再体制化 ホームワーク	
			F	ストレスと心の健康への支援法	予防教育 セルフモニタリング 対処スキル獲得への支援 リラクゼーション技法 ポジティブ心理学的アプローチ	
			G	パーソンセンタード・アプローチ(人間的アプローチを含む)	非指示的応答(ありのままの受容 表現内容の繰り返し 感情の反射・明確化) 無条件の肯定的関心 共感的理解 純粋さ(自己一致) 生きる意味の発見への援助(ロゴセラピー)	
			H	カウンセリング	成長・開発支援 生涯発達支援 キャリア発達支援 ウェルネス増進支援 エンカウンター・グループ(関係性に生きる人間への支援)	
			I	集団療法・グループカウンセリング	集団精神療法 アサーション・トレーニング サイコドラマ ゲシュタルト・セラピー ソーシャルスキル・トレーニング	
			J	家族療法	システムズ・アプローチ 二重拘束的コミュニケーション 人生物語の理解 人生の書き換え リフレーミング	
			K	コミュニティアプローチ	チームアプローチ アウトリーチ コンサルテーション 危機介入リエゾン・ネットワーク活動	
			L	技法の選択と効果のエビデンス	エビデンス・ベースト・アプローチ メタ分析 システマティック・レビュー ランダム化比較対照試験	
			A	②訪問による支援や地域支援の意義	訪問による支援や地域支援	アウトリーチ 多職種・市民連携 リエゾン/ネットワーク活動 コンサルテーション 地域包括ケア
			A	③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法	良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法	開かれた質問・閉ざされた質問 非言語的コミュニケーション 動機づけ面接法 コーチング ナラティブ・アプローチ
			A	④プライバシーへの配慮	プライバシーへの配慮	個人情報・要配慮個人情報 個人情報保護 個人情報コントロール権 守秘義務 情報開示
A	⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援	関係者に対する支援	カウンセリング 心理教育 コーディネーション アドバイス			
A	⑥心の健康教育	心の健康教育	ストレスチェック ハラスメント対応 ストレス-コーピング技法 セルフヘルプ ヘルスプロモーション			

カテゴリー	科目番号	大学における必要な科目名	大項目 各科目に「含まれる事項」	中項目 各回の授業タイトルの例	小項目 含むべきキーワードの例		
実践心理学	16	健康・医療心理学	①ストレスと心身の疾病との関係	A ストレスの心理とアセスメント	ストレッサー・ストレス反応の評価尺度 ストレス-コーピング過程 トランスアクションル・モデル ストレス緩和要因		
				B ストレスの生理と心身の疾病	汎適応症候群 セリエの学説 心身症 メンタルヘルスの低下 精神神経内分泌免疫系 コルチゾール 自律神経系		
				C 心の健康とストレスマネジメント	ストレス・モデルに基づくストレスマネジメント 健康づくりカウンセリング リラクゼーション コーピング		
			②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援	A 医療現場における活動の基本	多職種連携・多職種協働 チーム医療 メディカルスタッフ 患者中心の医療 生物・心理・社会モデル (患者の) 自己決定権 / (患者の) 自己決定医療 医療者-患者関係		
				B 保健・医療における法律・制度・倫理	医療法 保健師助産師看護師法 精神保健福祉士法 社会福祉士及び看護福祉士法 情報開示・共有 患者の権利 インフォームド・コンセント 生命倫理教育		
				C 精神科 (小児・思春期)	知的障がい 児童虐待 自閉症スペクトラム症 いじめ 不登校 ひきこもり 家庭内暴力 摂食障害 反社会的行動		
				D 精神科 (成人期)	統合失調症 気分障害 不安障害 がん 難病 依存症 エイズ		
				E 精神科 (高齢期)	睡眠障害 認知症 がん終末期 遺族ケア 自殺		
				F 医療観察法指定医療機関	医療観察法 触法精神障害者 高規格精神病棟 心身喪失		
				G 心療内科・内科	心身症 ストレス性疾患 慢性疼痛 臓器移植 脳死 慢性疾患 生活習慣病 プライマリ・ヘルスケア		
				H 小児科・母子保健領域	不妊治療 遺伝医療 マタニティーブルー (産褥期うつ病) 発達障害 学習障害 小児がん 先天性疾患 育児不安 虐待		
				I 神経科・リハビリテーション領域	てんかん 神経難病 高次精神機能障害 脳血管障害後遺症 障害受容 アルツハイマー病 パーキンソン病		
				J さまざまな医療現場 (高齢者医療、先端医療等)とコンサルテーション	延命治療 尊厳死 臓器移植 (高度) 先駆的医療 がんの先進医療 在宅医療 心理相談 多職種連携		
			③保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援	A さまざまな保健活動	一次・二次・三次予防 セルフケア 望ましい健康行動の容容 ポピュレーション・アプローチ 動機づけ面接		
				B 健康支援活動とストレスチェック	ストレスチェック制度 労働安全衛生法 職業性ストレスに関する理論モデル 職業性ストレス簡易調査票 職場環境の改善 運動・栄養・休養による介入		
				C 自殺予防活動	自殺のリスク要因 社会資源の活用 社会啓発・心理教育 自殺未遂者・遺族への支援		
	④災害時等に必要な心理に関する支援	A 災害時等に必要な心理に関する支援	心理的ファーストエイド 外傷後ストレス障害 レジリエンス 支援者への後方支援				
	17	福祉心理学	①福祉現場において生じる問題及びその背景	A 社会福祉の歴史と動向	日本における社会福祉の歴史と動向 諸外国における社会福祉の歴史と動向		
				B 社会福祉の理念	ノーマライゼーション クオリティ・オブ・ライフ エンパワメント ストレングス		
				C 社会福祉の制度・法律	社会福祉法 児童福祉関連 高齢者関連 障害者関連		
				D 社会福祉の職種	精神保健福祉士 社会福祉士 介護福祉士		
			②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援	A 福祉現場における活動の基本	ソーシャル・インクルージョン エコロジカル (生態学的) モデル 多職種連携・協働		
				B 福祉分野の活動における倫理	尊厳・自己決定 自己実現 権利擁護 (アドボカシー)		
				C 福祉における心理アセスメント	発達に関するアセスメント 認知症に関するアセスメント		
				D 福祉における心理学的支援	認知行動療法 社会生活技能訓練 (SST) 遊戯療法・描画療法		
				E 児童福祉分野の活動	児童福祉施設・サービス 社会的擁護 児童相談所の役割		
				F 家庭福祉分野の活動	貧困・ひとり親家庭 DV (ドメスティック・バイオレンス) 子育て支援		
				G 高齢者福祉分野の活動	高齢者福祉施設・サービス 在宅福祉 手段的日常生活動作 (IADL)		
				H 障害者福祉分野の活動	障害者福祉施設・サービス セルフヘルプグループ 雇用支援		
			③虐待および認知症についての基本的知識	A 虐待	児童虐待 高齢者虐待 被虐待児(者)への支援		
				B 認知症	血管性認知症 変性性認知症 患者・介護者への支援		
			18	教育・学校心理学	①教育現場において生じる問題及びその背景	A 教育の制度・法律	教育に関する権利と義務 学校教育制度 社会教育制度
						B 教育・学校分野での活動の倫理	情報倫理 学級経営
C 学校における問題の理解と対応						不登校 いじめ 非行・暴力行為	
②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援	A 発達と教育	認知・言語の発達と教育 感情・社会行動の発達と教育					
	B 学習と教育	学習・認知のメカニズムと教育 学習意欲 集団と学習					
	C 教授方法	教授法の種類と特徴 個人差と適性処遇交互作用					
	D 教育分野における心理学的アセスメント	学習の達成度の評価 学力・知能のアセスメント 対人関係・環境面のアセスメント					
	E 教育における心理学的援助	スクールカウンセリング 保護者・教職員・地域社会との連携 心の健康に関する情報提供					
	F 特別支援教育	特別支援教育 学習障害 学習支援					

カテゴリー	科目番号	大学における必要な科目名	大項目 各科目に「含まれる事項」	中項目 各回の授業タイトルの例	小項目 含むべきキーワードの例			
19	司法・犯罪心理学	①犯罪・非行, 犯罪被害及び家事事件についての基本的知識	A	司法・犯罪分野の制度・法律・職種	刑法 刑事訴訟法 民事訴訟法 刑事施設法(旧監獄法) 少年法 (少年院法 少年鑑別所法) 医療観察法 児童虐待防止法 DV防止法 高齢者虐待防止法 障害者虐待防止法 犯罪被害者等基本法 法務技官 法務教官 家庭裁判所調査官 児童相談所心理司 児童相談所福祉司			
			B	司法・犯罪分野での活動の倫理	個人情報と守秘義務 臨床活動の倫理 鑑定・専門証言における倫理 刑事訴訟法違反(開示証拠の目的外使用) プロファイリング 嘘の検出 心理学鑑定 精神鑑定			
			C	各機関における活動	警察(少年センター 犯罪被害者支援室 科捜研・科警研) 家庭裁判所(家事部 少年部) 少年鑑別所 少年院 刑務所 保護観察所 医療観察法指定医療機関 児童相談所 児童自立支援施設 市町村 民間団体(犯罪被害者支援センター等)			
			D	犯罪・非行の原因と支援	犯罪原因論 犯罪と環境 罰と抑止 矯正・更生(リハビリテーション)とプログラム 修復的司法			
			E	犯罪被害への支援	司法面接 ワンストップサービス(付添い支援等を含む ソーシャル・サポート) カウンセリング(認知行動療法等) ADR			
			F	家事事件	家事面接 ハーグ条約 親権にかかわる法律 片親阻害症候群			
			A	司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援	A	司法・犯罪分野における心理学的アセスメント	アセスメントの次元と手法 再犯のリスク評価 プロファイリング	
					B	司法・犯罪分野における心理学的援助	処遇プログラム 認知行動療法(怒りコントロール等) 犯罪防止と地域社会への情報提供	
					C	法と心理学	裁判心理学 取調べと供述の心理学 目撃供述の心理学	
			20	産業・組織心理学	①職場における問題に対する必要な心理に関する支援	A	産業・組織分野の制度・法律・職種	労働基準法 労働契約法 労働安全衛生法 過労死防止対策推進法 男女雇用機会均等法 労働基準監督官 産業安全専門官・労働衛生専門官 産業医
						B	産業・組織分野での活動の倫理	産業・組織分野での活動の倫理 個人情報と守秘義務
						C	作業	ワークモチベーション 職場ストレス
						D	人事とキャリア形成	人事評価 ワーク・ライフ・バランス
						E	消費者行動とマスメディア心理学	マーケティング
F	産業・組織分野における心理学的アセスメント	ストレスチェック 職業適性のアセスメント 人事のアセスメント 組織風土および労働環境のアセスメント						
G	産業・組織分野における心理学的援助	産業カウンセリング EAP(従業員支援プログラム) 労働環境の改善 職場のストレス予防とストレスマネジメント 復職支援 キャリアカウンセリング						
②組織における人の行動	A	職場集団のダイナミックスとコミュニケーション			グループ・ダイナミックス(集団力学) コミュニケーション 意思決定 チームワーク			
	B	リーダーシップ			集団目標の達成 成員による受容 特性論 行動論 状況論			
	C	組織成員の心理と行動			パーソナリティと適性 能力とパフォーマンス(業績) 認知と感情 職務満足 ワークモチベーション			

カテゴリー	科目番号	大学における必要な科目名	大項目 各科目に「含まれる事項」	中項目 各回の授業タイトルの例	小項目 含むべきキーワードの例
心理学 関連科目	21	人体の構造と機能及び疾病	①心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害	A 身体構造と機能(1)細胞と組織	遺伝子 細胞 組織
				B 身体構造と機能(2)器官と器官系	循環器系 消化器系 脳神経系 呼吸器系 生殖器系 筋骨格系 血液系 免疫系 内分泌系
				C 疾病や障害	炎症 感染 アレルギーと免疫異常 腫瘍 循環障害
			②がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病	A 身体疾患に伴う精神症状に対して精神的ケアが必要な疾患	がん 心筋梗塞 糖尿病
				B 心身相関のはっきりした疾患(心身症)	過敏性腸症候群 消化性潰瘍 気管支喘息
				C 身体症状を呈する精神疾患	不安症 うつ病
				D 器質性精神障害	アルツハイマー型認知症 パーキンソン病 てんかん
				E 症状精神病	甲状腺機能亢進症 産褥期精神障害
				F 医学的治療と心理学的ケア	医学的治療 多職種チーム医療 公認心理師の役割
				22	精神疾患とその治療
	B 統合失調症(統合失調症スペクトラム障害)	統合失調症(統合失調症スペクトラム障害)			
	C 双極性障害、抑うつ障害	双極性障害 抑うつ障害			
	D 不安に関連した障害	不安症 強迫症 心的外傷およびストレス関連障害 解離症 身体症状			
	E 発達障害(神経発達症群/神経発達障害群)	発達障害(神経発達症群/神経発達障害群)			
	F 摂食障害、排泄症、睡眠-覚醒障害	摂食障害 排泄症 睡眠-覚醒障害			
	G 秩序破壊的・衝動制御・素行症	秩序破壊的・衝動制御・素行症			
	H 物質関連障害および嗜癖性障害	物質関連障害および嗜癖性障害			
	I 認知症(神経認知障害)	認知症(神経認知障害)			
	J パーソナリティ障害	パーソナリティ障害			
	K その他の精神疾患	その他の精神疾患			
②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化	A 向精神薬の種類、作用、副作用	向精神薬の種類 作用 副作用			
③医療機関との連携	A 医学的治療と心理学的ケア	生物・心理・社会モデル 多職種チーム医療			
	B 精神科医療における公認心理師の役割	心理的アセスメント 異常心理学(心の病理学) 心理学的支援 関係者への支援			
	C 医療機関への紹介	医療分野以外の活動における医療機関との連携			
23	関係行政論	①法体系と公認心理師の理解	A 法体系と行政	日本国憲法と法体系 法と行政 資格と法	
			B 公認心理師法の理解	公認心理師法 名称独占資格と業務独占資格	
		②保健医療分野に関する制度	A 保健医療分野の専門家と施設	医師法 保健師助産師看護師法 精神保健福祉士法 病院・診療所 保健所	
			B 保健医療分野の法律と政策	精神保健福祉法 心神喪失者等医療観察法 国民健康保険制度 地域保健法 健康増進法	
		③福祉分野に関する制度	A 福祉分野の専門家と施設	精神保健福祉士法 社会福祉士及び介護福祉士法 障害福祉サービスをおこなう施設	
			B 福祉分野の基本となる法律	社会福祉法 児童福祉法 児童虐待防止法 老人保健法 老人福祉法 介護保険法 障害者総合支援法 障害者差別解消法	
		④教育分野に関する制度	A 教育分野の専門家と施設	教員 養護教員 スクールカウンセラー 学校 教育委員会	
			B 教育分野の基本となる法律	教育基本法 学校教育法 学校保健安全法 発達障害者支援法 いじめ防止対策推進法	
		⑤司法・犯罪分野に関する制度	A 司法・犯罪分野の専門家と施設	裁判官 検察官 弁護士 家庭裁判所調査官 警察官 少年鑑別所鑑別技官 保護観察官裁判所 刑務所 少年鑑別所 更生保護施設	
			B 司法・犯罪分野の基本となる法律	刑法 刑事訴訟法 少年法 少年院法 心神喪失者等医療観察法 犯罪被害者等基本法	
		⑥産業・労働分野に関する制度	A 産業・労働分野の専門家と施設	労働基準監督官 産業安全専門官・労働衛生専門官 産業医 障害者職業センター	
			B 産業・労働分野の基本となる法律	労働基準法 労働安全衛生法 過労死防止対策推進法	

カテゴリー	科目番号	大学における必要な科目名	大項目 各科目に「含まれる事項」	中項目 各回の授業タイトルの例	小項目 含むべきキーワードの例
演習	24	心理演習	<p>知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、事例検討で取り上げる。</p> <p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等</p> <p>(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成</p> <p>(ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ</p> <p>(エ) 多職種連携及び地域連携</p> <p>(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>	A 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援 等	ロールプレイング コミュニケーション技術の理解 心理検査の実際 心理面接のロールプレイング 地域支援のチームアプローチの理解
				B 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成	支援を要する者の心理 対象者のニーズの把握 適切なフィードバックの方法 支援計画のたてかた
				C 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ	チームアプローチの心得
				D 多職種連携及び地域連携	多職種連携の心得 地域連携の心得
				E 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	職業倫理の理解 法的義務の理解
実習	25	心理実習	<p>保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。(ただし、経過措置として当分の間は、医療機関での実習を必須とし、医療機関以外の施設での実習については適宜行う。)</p> <p>(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ</p> <p>(イ) 多職種連携及び地域連携</p> <p>(ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>	A 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ	母性や乳幼児への心理的支援 高齢者への心理的支援 教育現場での心理的支援 子どもをめぐる問題への心理的支援 司法・犯罪分野での心理的支援 職場のメンタルヘルスにかかわる心理的支援 チームアプローチによる総合的支援の実践
				B 多職種連携及び地域連携	多職種との情報の共有と連携
				C 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	守秘義務 職業倫理の遵守 法的義務

- 作成：公益社団法人 日本心理学会 常務理事会  
横田正夫 阿部恒之 岡 隆 坂上貴之 丹野義彦 津田 彰 仲 真紀子 宮谷真人
- 作成協力：内田伸子 大橋靖史 木山幸子 行場次朗 小林春美 坂井信之 田谷修一郎 伏島あゆみ 山崎久美子  
(五十音順)